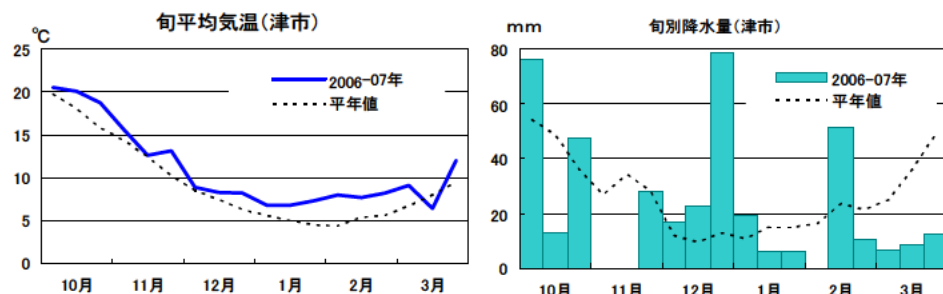


## 今月のトピックス 「今年の暖冬と病害虫」

### 1) 気象経過

三重県では昨年夏から高温傾向で、暖かい晩秋、記録的な暖冬が 3 月上旬まで続きました。一方、降水量については、晴れの日が多いのに降れば土砂降りという感じでした。



### 2) 冬季の病害虫の動き

このような異常な気象に対して、農作物の病害虫も例年にない変則的な動きを示しています。

発生の多かった病害虫	発生の早まった病害虫
キャベツ菌核病 イチゴ ハダニ類	ネギさび病 チャ カンザワハダニ チャ チャノホソガ

### 3) 今後気になる病害虫

コムギ赤かび病： 開花時期に高温多雨であると発病が助長される病気です。今年は暖冬のために開花が早まっています（4 月中旬以降）。気温が低く、降雨の少ない時期に開花が始まったのでその分の感染量は少なくなりました。一方、出穂後の気温が低い場合は開花始めから終わりまでの期間が長引くと予想

されます。4 月末以降にも開花が続く圃場では、例年なら高温多雨の季節を迎えるため思わぬ被害拡大を招くことがあるのですが、気象予報によれば、本年のその時期は平年より晴れの日が多いようなので、それほど心配はいらぬかもしれません。今後の気象予報に注意しましょう。

チャのカンザワハダニ： すそ枝の葉に集まって越冬しています。本年は、一部で 2 月下旬から早くも越冬からさめて産卵が始まったようですが、活動が早まること、4 月のピーク時に密度が高まるかどうかの関係はないようです。この暖冬が密度増加要因になるとは限りません。ただし、圃場によって越冬密度がもともと高いので、注意は必要です。また、4 月に入ってから気温がかなり低いため、ダニが薬剤のかかりにくいすそ枝に残っているかもしれません。防除したからと安心せずに、今後の発生に気をつけてください。

チャのチャノホソガ： 茶業研究室のトラップによる調査では、チャノホソガの初飛来日は 3 月 3 日（昨年 3 月 23 日）、ピークは 3 月 6 半旬でした。発生時期が異常に早くなっています。通常の害虫であれば発生が早いとその後の密度増加が心配なのですが、この害虫についてはチャの萌芽との同調性が悪いいため、越冬後の成虫の発生が早すぎると産卵できる新芽がないという状況になります。そのため本年は一番茶期の被害は減少すると思われるます。

カンキツかいよう病： 暖冬には越冬菌量が多くなるといわれています。降雨が少なかったことで現在のところ病斑は停滞していて平年並ですが、発芽からの強雨があると感染が多くなるおそれもあります。今後の雨に注意しましょう。